

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-135568

⑬ Int. Cl.⁵
G 06 F 15/20

識別記号 庁内整理番号
3 0 1 H 7165-5B

⑭ 公開 平成2年(1990)5月24日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全5頁)

⑮ 発明の名称 情報処理装置の文字モードおよびフォントモード設定方式

⑯ 特 願 昭63-290762

⑰ 出 願 昭63(1988)11月16日

⑱ 発 明 者 天 野 孝 弘 神奈川県大和市深見西4丁目2番49号 株式会社ビーエフ
ユー大和工場内

⑲ 出 願 人 株式会社ビーエフユー 石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の2

⑳ 代 理 人 弁理士 古 谷 史 旺

明 細 書

1. 発明の名称

情報処理装置の文字モードおよびフォントモード設定方式

2. 特許請求の範囲

(1) 複数種類の入力文字を有し、所定の文字モード設定操作により対応する文字種別が指定される情報処理装置において、

カーソル位置または所定の範囲にある文字データを読み込み、その文字種別を識別する文字種別識別手段(11)と、

識別された文字種別に応じた文字モードを設定する文字モード設定手段(13)と

を備えたことを特徴とする情報処理装置の文字モード設定方式。

(2) 複数種類の文字フォントを有し、所定のフォントモード設定操作により対応するフォント種別が指定される情報処理装置において、

カーソル位置または所定の範囲にある文字デー

タを読み込み、そのフォント種別を識別するフォント種別識別手段(15)と、

識別されたフォント種別に応じたフォントモードを設定するフォントモード設定手段(17)とを備えたことを特徴とする情報処理装置のフォントモード設定方式。

3. 発明の詳細な説明

(概 要)

複数種類の入力文字をもつ情報処理装置の文字モード設定方式に関し、

文字モードの設定を容易にし、文字入力作業の効率化を図ることを目的とし、

複数種類の入力文字を有し、所定の文字モード設定操作により対応する文字種別が指定される情報処理装置において、カーソル位置または所定の範囲にある文字データを読み込み、その文字種別を識別する文字種別識別手段と、識別された文字種別に応じた文字モードを設定する文字モード設定手段とを備え構成する。

〔産業上の利用分野〕

本発明は、複数種類の入力文字および文字フォントをもつ情報処理装置に関する。

ここで、入力文字とは、英大文字、英小文字、平仮名、片仮名、漢字などをいい、入力時に各文字種別を指定する文字モードの設定が行なわれる。また、文字フォントとは、たとえば日本語文字では明朝体、ゴシック体、教科書体などの各印刷字体をいい、入力時その他において各フォント種別を指定するフォントモードの設定が可能になっている。

〔従来の技術〕

情報処理装置の入力操作では、あらかじめ設定されている文字モード（汎用機では英大文字、ワードプロセッサ専用機では平仮名など）以外の文字で入力するなど文字種別を変更する場合には、所定のキー操作により対応する文字モードの設定が必要になっている。また、フォント種別に応じたフォントモードの設定においても同様であった。

り、操作性を悪化させる要因となっていた。

本発明は、このような従来の問題点を解決するもので、文字モードおよびフォントモードの設定を容易にし、文字入力作業の効率化を図ることが可能な情報処理装置を提供することを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

第1図(1)は、請求項(1)に記載の本発明の原理ブロック図である。

情報処理装置は、複数種類の入力文字を有し、所定の文字モード設定操作により対応する文字種別が指定される構成である。

図において、文字種別識別手段11は、カーソル位置または所定の範囲にある文字データを読み込み、その文字種別を識別する。

文字モード設定手段13は、識別された文字種別に応じた文字モードを設定する。

第1図(2)は、請求項(2)に記載の本発明の原理ブロック図である。

情報処理装置は、複数種類の文字フォントを有

したがって、数種類の入力文字あるいは文字フォントを使ってエディタ、ワードプロセッサあるいはデータ入力などの作業を行なう場合には、編集している位置に設定されている文字モードあるいはフォントモードを作業者が判断し、それに応じたモード設定を行なった後に編集作業を継続しなければならなかった。

〔発明が解決しようとする課題〕

たとえばワードプロセッサで、すでに入力されている文章の編集などを行なう場合に、編集位置の文字種別あるいはフォント種別が比較的一定しているときには、文字モードあるいはフォントモードの設定変更の頻度は低く、モード設定の操作が編集作業全体に及ぼす影響は少ない。

ところが、英大文字、英小文字、平仮名、片仮名、漢字などが多用され文字種別が頻繁に変化する文章の場合、あるいは多くの文字フォントが用いられている場合には、その都度文字モードあるいはフォントモードの設定変更を行なう必要があ

し、所定のフォントモード設定操作により対応するフォント種別が指定される構成である。

図において、フォント種別識別手段15は、カーソル位置または所定の範囲にある文字データを読み込み、そのフォント種別を識別する。

フォントモード設定手段17は、識別されたフォント種別に応じたフォントモードを設定する。

〔作用〕

本発明は、文字種別識別手段11がカーソル位置または所定の範囲（たとえば、カーソル位置およびその前後の所定文字）の文字種別を識別し、文字モード設定手段13がその文字種別に応じた文字モードを自動的に設定することにより、文字モードの設定変更に必要なであった所定の操作を不要にすることができる。

また、フォント種別識別手段15がカーソル位置または所定の範囲（たとえば、カーソル位置およびその前後の所定文字）のフォント種別を識別し、フォントモード設定手段17がそのフォント

種別に応じたフォントモードを自動的に設定することにより、フォントモードの設定変更に必要なであった所定の操作を不要にすることができる。

〔実施例〕

以下、図面に基づいて本発明の実施例について詳細に説明する。

第2図は、文字モード設定における本発明の一実施例を示すフローチャートである。

なお、ここではカーソル位置の文字種別を識別し、その文字種別を文字モードの設定値とする例を示す。

カーソル移動があれば、そのカーソル位置にある文字データが読み込まれ、文字種別の識別が行なわれる。なお、この動作は第1図に示す文字種別識別手段11に対応する。

次に、識別された文字種別（英大文字、英小文字、平仮名、片仮名、漢字）に応じて、各文字モードの設定が行なわれる。なお、この動作は第1図に示す文字モード設定手段13に対応する。

定値とする例を示す。

カーソル移動があれば、そのカーソル位置にある文字データが読み込まれ、フォント種別の識別が行なわれる。なお、この動作は第1図に示すフォント種別識別手段15に対応する。

次に、識別されたフォント種別（グループ1, 2, ..., i）に応じて、各フォントモードの設定が行なわれる。なお、この動作は第1図に示すフォントモード設定手段17に対応する。

第5図は、フォント種別の識別とフォントモードの設定との関係を説明する図である。

図において、カーソルを下線で示し、空白を□で示す。なお、第5図は印刷結果であり、表示画面とは異なる。

図に示す文章では、カーソルが「I」にある場合には、フォントモードは「イタリック体」に設定され、カーソルが「i」にある場合には、フォントモードは「標準体」に設定され、カーソルが「タ」にある場合には、フォントモードは「ゴシック体」に設定され、カーソルが「栗」にある場

合には、文字種別の識別と文字モードの設定との関係を説明する図である。

図において、カーソルを下線で示し、空白を□で示す。

図に示す文章では、カーソルが「I」にある場合には、文字モードは「英大文字」に設定され、カーソルが「m」にある場合には、文字モードは「英小文字」に設定され、カーソルが「は」にある場合には、文字モードは「平仮名」に設定され、カーソルが「タ」にある場合には、文字モードは「片仮名」に設定され、カーソルが「栗」にある場合には、文字モードは「漢字」に設定される。

したがって、たとえば綴り誤りを修正する場合には、その位置にカーソルを移動させるだけで対応する文字モードが自動的に設定され、キー操作により文字モードの設定は不要となる。

第4図は、フォントモード設定における本発明の一実施例を示すフローチャートである。

なお、ここではカーソル位置のフォント種別を識別し、そのフォント種別をフォントモードの設

合には、フォントモードは「標準体（明朝体）」に設定される。

なお、文字モードあるいはフォントモードの設定に必要な文字種別あるいはフォント種別の識別は、上述したようにカーソル位置の一文字の種別を識別する方式の他に、カーソル位置の前あるいは後の文字種別あるいはフォント種別を識別する方式、またカーソル位置およびその前後の所定範囲の文字列の最も頻度の高い文字種別あるいはフォント種別を識別する方式など、使用形態に応じた設定が可能な構成であってもよい。

また、例えば空白（「□」）にカーソルがある場合には、その前後あるいはいずれか一方の文字種別あるいはフォント種別を識別するなど、カーソル位置が文字種別あるいはフォント種別の識別に不都合な場合（「、」など）には、適宜前述した各方式の一つを選択する構成であってもよい。

また、本発明方式は、たとえば所定のキー操作により文字モードあるいはフォントモードの設定を行なっている従来方式との互換性を確保し、併

用を可能とするために、簡単なキー操作あるいはコマンド入力により、初期入力では従来方式によるモード設定、修正および編集作業においては本発明方式によるモード設定など、両方式の有効無効を適宜切り換えることができる構成としてもよい。

〔発明の効果〕

上述したように、本発明によれば、文字モードあるいはフォントモードの設定変更のための操作が不要となり、たとえば編集時の文字入力作業においても、文字モードあるいはフォントモードの設定を改めて行なうことなく入力作業の中で対応するモードが自動的に設定されるので、操作性が向上し入力時間の短縮が図れるなど大幅な効率化が可能となり、実用的には極めて有用である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の原理ブロック図、

第2図は文字モード設定における本発明の一実

施例を示すフローチャート、

第3図は文字種別の識別と文字モードの設定との関係を説明する図、

第4図はフォントモード設定における本発明の一実施例を示すフローチャートである。

第5図はフォント種別の識別とフォントモードの設定との関係を説明する図である。

図において、

11は文字種別識別手段、

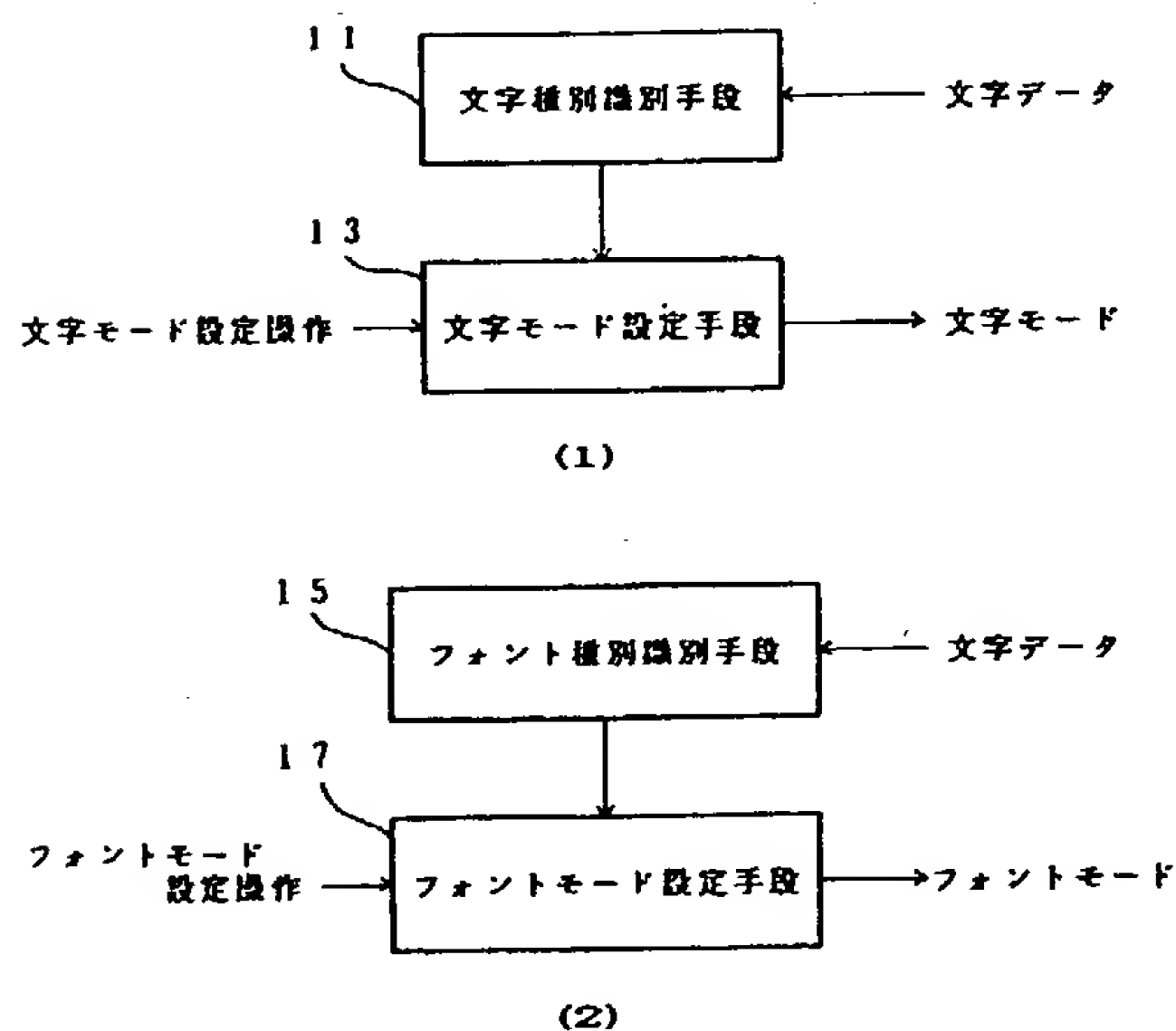
13は文字モード設定手段、

15はフォント種別識別手段、

17はフォントモード設定手段である。

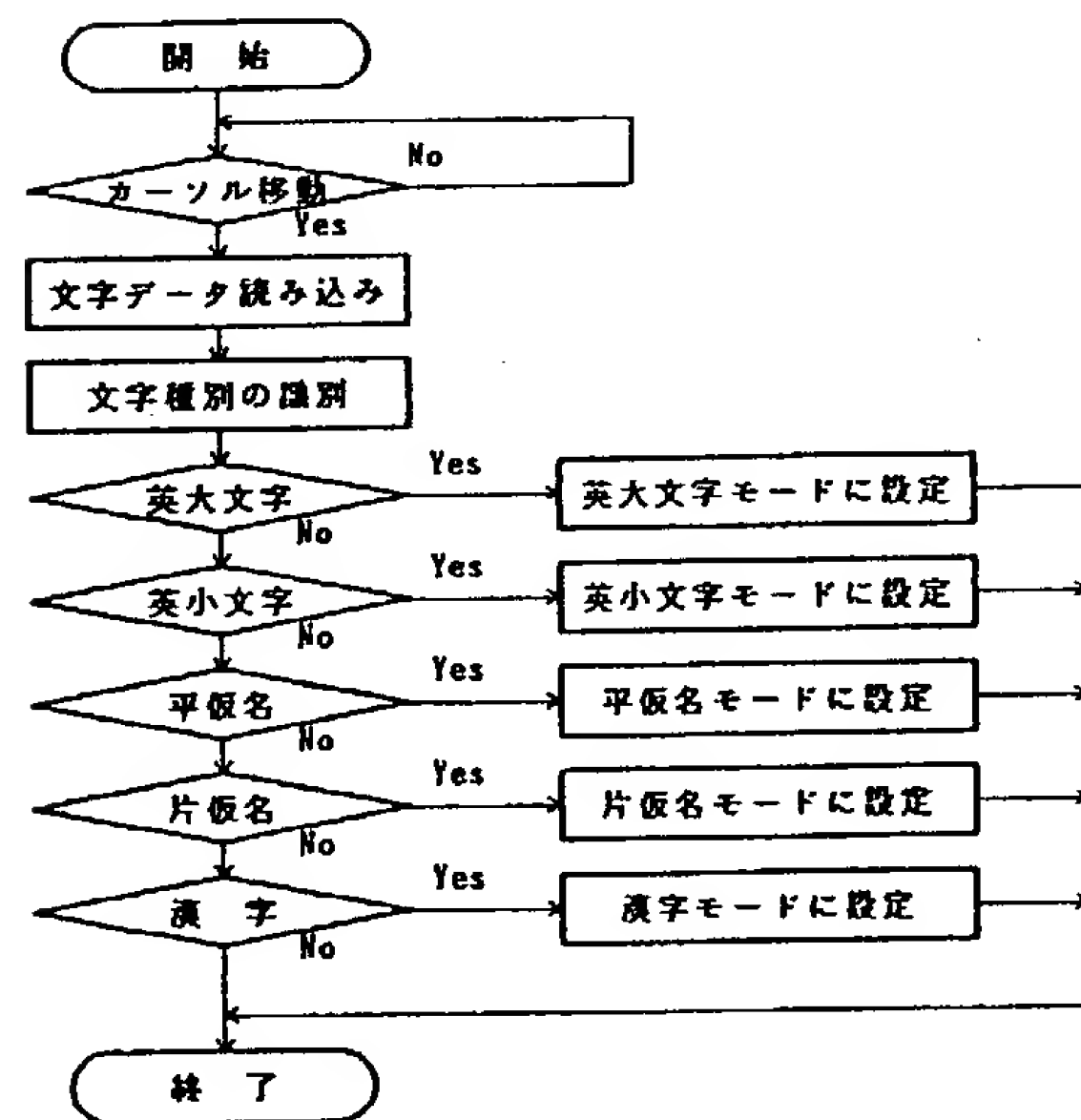
特許出願人 株式会社ビーエフユー

代理人 弁理士 古谷 史



本発明原理ブロック図

第1図



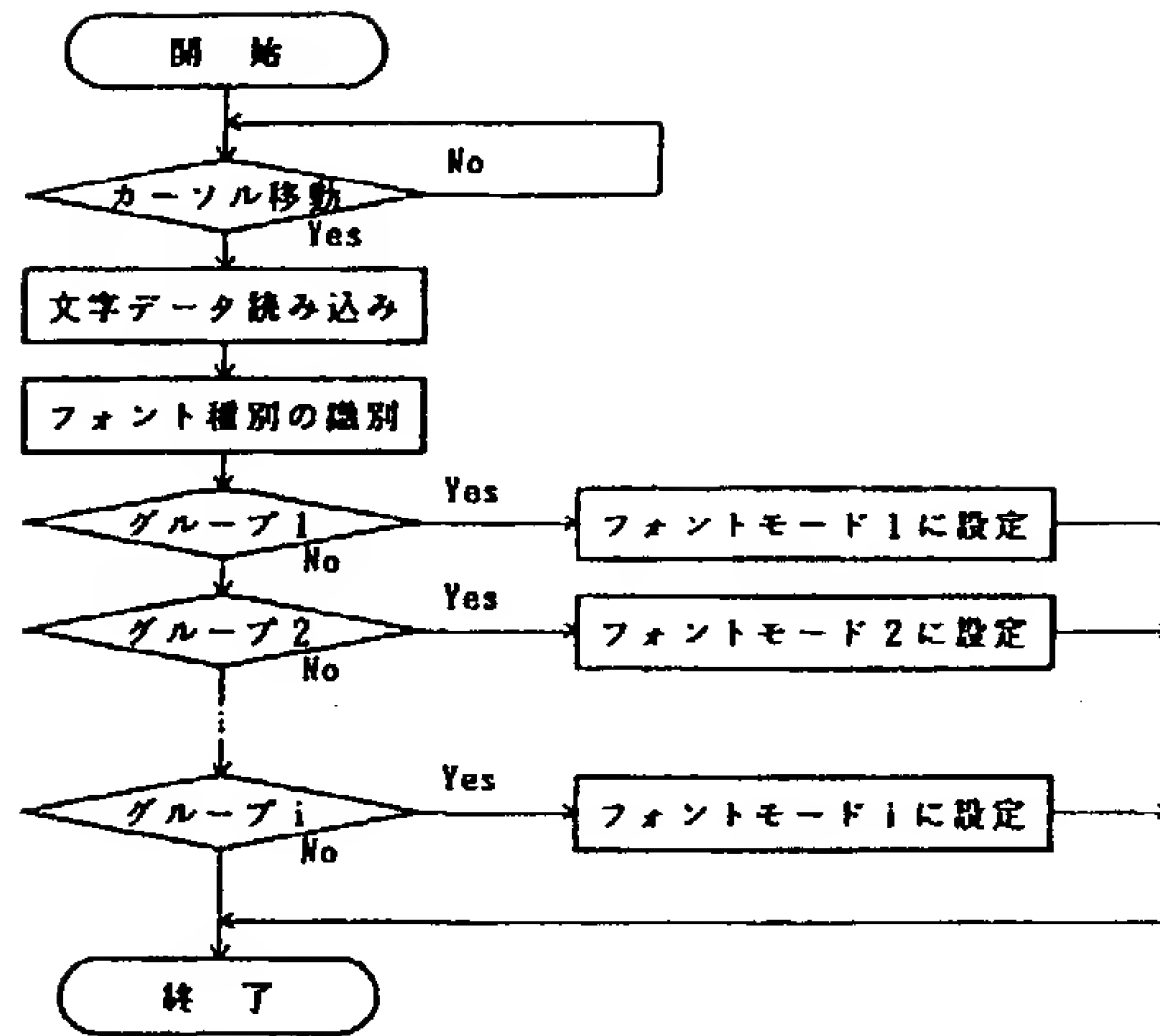
文字モード設定における本発明実施例フローチャート

第2図

"Imagination is more important than knowledge" とは、アインシュタインの言葉である。

文字種別と文字モードの関係説明図

第3図



フォントモード設定における本発明実施例フローチャート

第 4 図

" Imagination ☐ is ☐ more ☐ important ☐ than ☐
knowledge " とは、アインシュタインの言葉である。

フォント種別とフォントモードの関係説明図

第 5 図